

英国における 子ども・家庭ソーシャルワーカー の資格と育成

増沢高（子どもの虹情報研修センター）

1. 英国と日本の人口

世銀2017より

	英国	日本
総人口	6 602万	12 678万
児童人口	1,260万	2,059万
首都(人口)	ロンドン (約813万)	東京 (約1370万)

2. 英国のCSC (CHILDREN SOCIAL CARE) と児童相談所

	英国	日本
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・通告の受理、調査、介入 ・要保護児童ケースへの支援 ・社会的養護ケースへの支援(自立支援、里親、養子縁組支援など) ・支援を必要とするケースの早期支援 (Early Help) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通告の受理、調査、介入 ・相談・支援 ・一時保護 ・措置機能 ・市町村援助機能
設置数	<p>地方自治体(152)のほとんどのに設置(人口規模が大きい地域は支部を設置)</p> <p>ロンドン市内では全区(33区、各区16万～37万)に設置</p>	<p>215箇所(2018年4月)</p> <p>東京都11箇所(特別区に設置されれば27箇所)</p>
ソーシャルワーカー	<p>30,670人(2017年9月)。</p> <p>対応ケース数:317,690件</p> <p>ケースをもつソーシャルワーカーの1人当たりのケース数は約17ケース</p>	<p>3,115人</p> <p>対応件数13万ケースとして、一人当たり約43ケース</p>

3. 子ども・家庭ソーシャルワーカーの雇用先

英国	日本
<ul style="list-style-type: none"> ○CSC ○民間団体(NSPCC、フォスタリング機関、施設など) ○ 地域の子どもの安全保障協議会 ○ 家庭裁判所の専属ソーシャルワーカー(チルドレンズ・ガーディアン:Children's Guardian) ○ アドボカシー機関 ○ 地方自治体の児童福祉行政部門の課長等 ○ 教育省の児童福祉行政部門の部長等(ソーシャルワーク本部長) ○ 大学、専門学校、研究所 ○ その他 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県職員 ○児童相談所 ○女性相談所 ○児童福祉行政部門の課長等
	<ul style="list-style-type: none"> 市区町村 ○要対協調整担当 ○生活保護CW ○児童福祉行政部門の課長等
	<ul style="list-style-type: none"> 民間機関 ○施設など ○大学、研究、教育機関

4. CSCの子ども家庭ソーシャルワーカーの役職

	英国	日本
管理職	<ul style="list-style-type: none">①SW:シニアマネージャー(エリア統括など)②SW:ミドルマネージャー(サービスマネージャーなど)③SW:ファーストラインマネージャー(現場のチームマネージャーなど)	児童福祉司(SW)とは限らない
実務者	<ul style="list-style-type: none">④SW:シニアソーシャルワーカー(上級ソーシャルワーカー、チームリーダー、スーパーバイザー)⑤SW:ケースホルダー(ケース担当)⑥SW:ケースを持たないソーシャルワーカー⑦SW:少年司法担当(Youth Custody Worker)⑧SW:ファミリーサポート	任用要件を満たした児童福祉司

5. 施策に影響を与えた近年の2つの事件

①ヴィクトリア・クリンビー事件(2000年)

②ベイビーP(ピーター)事件(2007年)



- ・CSCとソーシャルワーカーに対するマスコミの痛烈な批判
- ・CSCが組織防衛的になり、ソーシャルワークが事務的、手続き的に
- ・CSCのソーシャルワークへの信頼は失墜
- ・ソーシャルワーカーの職業的価値も低下、成り手の減少



政府は、

○ソーシャルワーク改善委員会を設置し、人材育成体系に着手(2010年)

○ムンロ報告書(2011年)を基にした児童保護制度改革を開始

ムンロの主張

ソーシャルワーカーは、フォーマットに情報を埋めていくことに時間を割き、一番大切な「子どもと会う時間」が奪われていった。手続きの多い官僚的な業務となったソーシャルワークを真に子どもと家族のものに戻すことが重要。そのためにはマニュアルではなく、児童・家庭ソーシャルワーカーの専門性を向上させる必要がある。

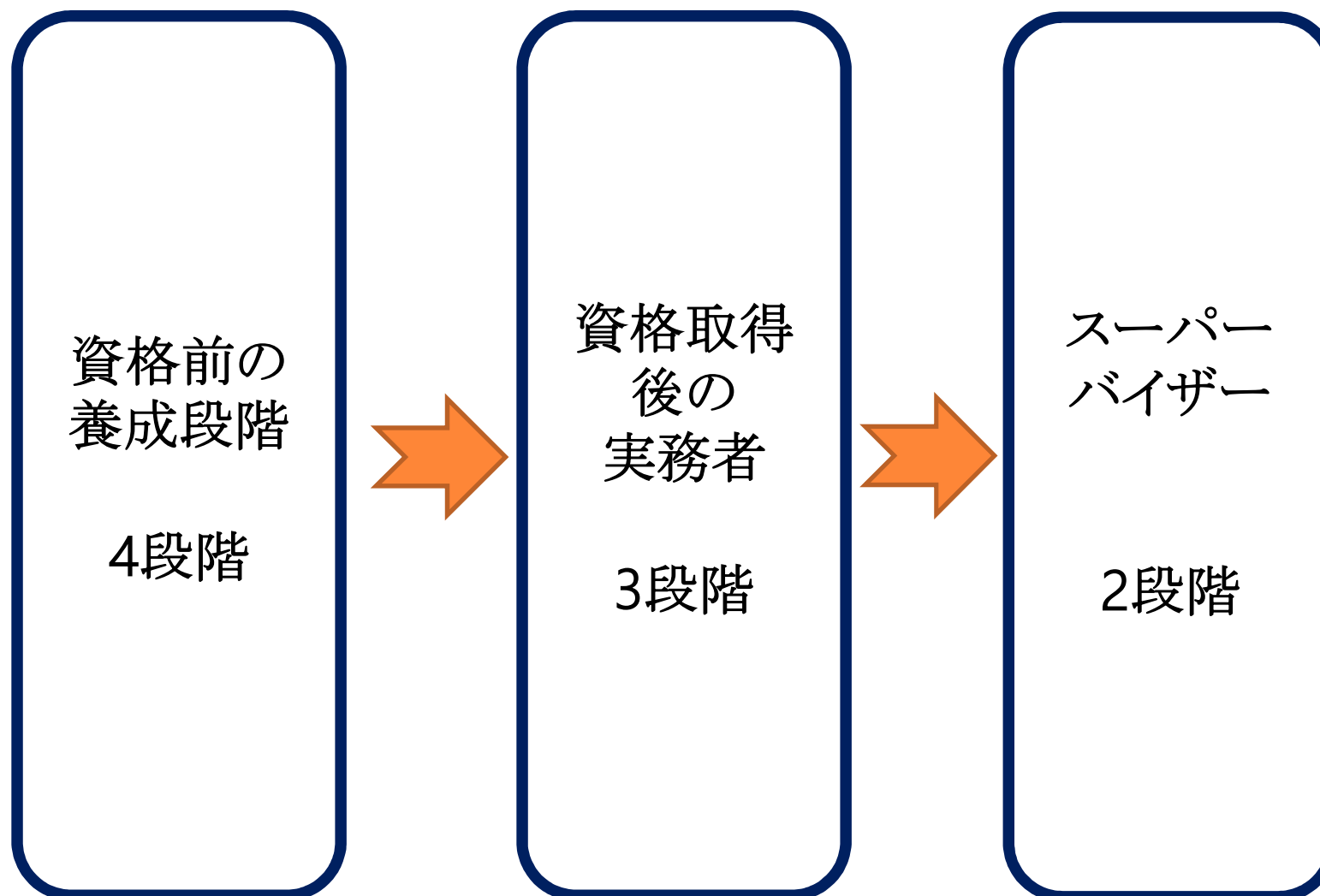
6. ソーシャルワーカーの人材育成体系 (PROFESSIONAL CAPABILITIES FRAMEWORK (PCF))



能力 (Capabilities) とは

新規の、複雑かつ変化しつつあるケースの状況に対して、適切に、効果的に、自分の知識、技術、資質、価値観等を総合して判断し、実践する能力

7. 育成の段階



8. 育成すべき資質や能力(育成体系(PCF)より)

①プロ意識(Professionalism)

②価値と倫理

③多様性と平等

④権利、正義、経済的福祉

⑤知識

ソーシャルワーク実践および研究、社会科学、法律その他の専門分野およびケースから得られる知識を深め、実践に活用する力

⑥批判的振り返りと分析

自らの実践を説明でき、自らを批判的に振り返る力

⑦介入と技術

適切に判断し、介入する技術

⑧文脈(状況)と組織(Contexts and Organisations)

状況を読み取り、機関協働を図っていく力

⑨専門的リーダーシップ

スーパーバイザーなどの後進の育成に取り組める力

9. 養成の段階で学ぶべき知識と技術(KSS)

教育省が示す子ども家庭ソーシャルワークに必要な知識と技術

- ① 子どもと家族に対するソーシャルワークの役割
- ② 子どもの発達
- ③ 大人の精神疾患、薬物乱用、DV、身体疾患及び障害
- ④ 子どもの虐待およびネグレクト
- ⑤ 子どもや家族への効果的な取り組み
- ⑥ 子どもと家族のアセスメント
- ⑦ 分析、意思決定、計画、レビュー
- ⑧ 法律と家族の司法制度 (family justice system)
- ⑨ 職業的倫理
- ⑩ スーパービジョンと調査の役割
- ⑪ 組織的文脈 (Organisational context)

10. 資格取得までの2通りの養成コース

(1) 養成大学（ロンドンだけで約40コース存在）

例：University of Bedfordshire

※PCFをもとにカリキュラムを設定

期間：3年間

1年目モジュール（コア）

講座等：安全保障（safeguarding）、SWの原理と実践、人間発達とライフコース、法律と政策

2年目モジュール（コア）

- ・ 講座等：子ども・若者・家族への支援、成人への支援、SWの文献研究
- ・ 実習：70日間：地域、社会に入っでの実習

3年目モジュール（コア）

- ・ 講座：SW理論、価値と倫理
- ・ 実習：100日間：実践レポート



資格取得：実習先に雇用されることがほとんど



大学院

2年間（1年間）の学び（大学院は国内で約200）



マスターの学位を取得：実習先に雇用されることがほとんど

<https://www.whatuni.com/advice/subject-guides/social-work-degree-guide/49218/>

(2) ファストトラック（大卒者社会人のためのコース）

① ステップアップ・トゥー・ソーシャルワーク (Step Up to Social Work)

期間：14ヶ月

- ・ 講座：倫理と実践、子どもの発達、リスクアセスメント、法制度
- ・ 実習：地方自治体（LA）において最低170日間SVを受けながらの実習
※約2万ポンドの返済不要の奨学金がある

② フロントライン (Frontline)

期間：2年間

- ・ 事前セミナー：5週間の宿泊研修
- ・ 1年目
 - ・ 講座46日間
 - ・ 実習：206日間。4人でユニットを組んでCSCで働きながら学ぶ

※事前セミナー(宿泊費、食費含む)、1年目の授業料は支払い不要。16,500～19,500ポンド程度の奨学金がある（地域によって異なる）

- ・ 2年目

資格を得た SWr として、コーチングを受けながらCSCで働く (ASYE)

※年収は25,000～35,000ポンド程度（地域によって異なる）

終了時、マスターの学位を取得

参考. FRONT LINEのプログラムの内容

○プログラムはKSSとPCFの内容をカバーするように構築される

夏季宿泊研修

5週間で人々の行動にどう変化をもたらすかを学び始める集中的な学習の機会となる。宿泊研修終了時、担当講師とコンサルタントSWrがLA実習の可否を評価する。

カリキュラム内容例:

- 重要なコンセプト・基本的知識(価値と倫理、社会的公正、人間と家族の発達、トラウマ、支援と保護)
- SW実践、モチベーションインタビュー、子育てへの介入のシステムチックアプローチ方法(エビデンスベースト)
- スキル実践の発展における振り返りの大事さ
- 事例検討とロールプレイを通じた知識と技術の使い方
- 子どものケアに関する法的枠組み
- ソーシャルワークにおけるリーダーシップ

1
年
目

LAのCSCでの実習

4人の参加者とユニットを組み、経験豊富なコンサルタントSWrにSVを受けつつ、現場で支援にあたる。ユニット内で議論をし、理論と実践をつなげ、自己の振り返りを促す。**200日を超える実践研修と46日間の座学**を受ける。実践講師とコンサルタントSWrが直接実践を観察し、指導を行う。

1年目の終わりに、認められればSWrとして登録できる資格を得る。

£ 19,000の奨学金が出る。

8. FRONT LINEのプログラムの内容

2
年
目

子どもと家庭SW (Advanced Relationship Based Social Work with Children and Families) において、修士号を取得することを目指す。
LAにおいて1対1のコーチングセッションを5回受けることができる。そのうち1回のセッションにはLAのマネージャーが参加し活動のフィードバックをする。
コーチングはAYE期間の人材開発とリーダー育成を目的にしている。
セッションでテーマとする内容の例：
・1年目からの変化への適応と自己マネジメント
・修士号取得とケース対応の両立
・焦点をあてるべきゴールを見つけること
・家族と他の専門職との協働における長所の利用の仕方
・関係性の構築と同僚の異なるアプローチに影響を与えること
・難しい会話と対立への対応
※2年目では特にリーダーシップの開発を重視し、コーチは子どもと家族、あるいは同僚との協働におけるリーダーシップについても助言をする。
フロントラインアカデミーでは「Firstline」というリーダー育成プログラムもある。

LAから約£24000の給料が出る

・カリキュラムと研修内容の構築

ベッドフォードシャー大学 (University of Bedfordshire)、家族療法研究所 (Institute of Family Therapy) とキングズ・カレッジ・ロンドン (King's College London) の精神医学研究所 (Institute of Psychiatry) からなるフロントラインアカデミー (The Frontline Academy) がカリキュラムを作っている。

・プログラム参加者数

2013年に開始をしてから2017年まで1000名以上の申し込みを受けた。2019年開始コースは400名近くが参加をしている。2020-2021年コースには452名の募集をかける。

11. PCFのレベルごとの内容

実務前の養成レベル

レベル1. トレーニング開始時 (Point of entry to Training)

社会的背景の認識、自己の認識、調和した関係を作る能力、必要な知識、技能、価値観等、主に講座を通してトレーニングを受ける。

レベル2. 実践への準備期 (Readiness for practice)

基本的なコミュニケーションスキル、利用者と関係を作る能力、組織の一員として働く能力、フィードバックやSVから学ぶ意欲などの力を身につける。基本的なSWの価値観、知識、理論、技能について講座と実習を通して学ぶ。

レベル3. 最初の実習の終了時 (End of first placement)

学んだ知識と技能を活用でき、SWの価値観を踏まえらる。SVを受けながら複雑性の低い状況に概ね対処できる能力と技術を主に実習を通して獲得する。

レベル4. 最終実習終了/資格認定コース修了時 (End of last placement/ Completion of qualifying course)

幅広い利用者に対応できる。より複雑な状況にも効果的に対処できる。支援やSVを求め、専門能力の継続的開発を追及する心構え。

養成コースを修了すれば資格を取得できる。資格者の登録、管理はSocial Work England (2019年12月から、それまではHCPC) が行う

実務後のレベル

レベル5. 新しく資格認定されたばかりのソーシャルワーカー/ 評価と支援を受けて働く1年

(Newly qualified social worker; NQSWr/ASYE)

資格を持った後の2年間の実践期間である。そのうち1年は、雇用先で評価と支援(SV)を受けながら業務を行うASYE (Assessed and Supported Year in Employment)と呼ばれるプログラムを受ける期間となる(終了時に事例レポート提出)。一つ、またはそれ以上の実践分野においてより深い専門性を発展させ、知識や技能を発展させることが求められる。

レベル6. ソーシャルワーカー (Social worker)

効果的に実践を行い、複雑性、リスク、不確かさ、困難さを増している状況の中で質の高い判断を下し、支援と助言を求め、それを役立てながら、自信と主体性を持って行動する。効果的に状況を判断する能力。起こる可能性のある問題の進展や選択肢を予測できる。専門的知識、利用者の意見、エビデンスのある知見を実践に取り入れることができる。

レベル7. 熟練ソーシャルワーカー (Experienced social worker)

より高いレベルのリスクを判断・管理し、複雑な状況において専門知識と効果的な実務能力を示す。上級や戦略的レベルの人々を含む、より幅広い専門家たちやその他の同僚たちとネットワークを築いて連携する。複雑な事例量を管理し、専門的な意見を提供する。

レベル8. 上級ソーシャルワーカー (Advanced social worker)

上級SWrは、自身のSW分野において高い技術を持ち、他者のSVや管理、実践、学習や発展に日常的に関与する。専門的知識、利用者の視点、研究/評価から得られたエビデンスを日常的かつ確実に実践に取り入れ、他者にも推奨します。その進路は3つある。

- 上級ソーシャルワーク実務者: 実務を継続し、リードする
- 上級ソーシャルワーク教育者: 教育者として、後進を教育する
- ソーシャルワークマネージャー/チームまたは実践リーダー: 管理的立場で組織やチームを運営する。

レベル9. 戦略的ソーシャルワーカー (Strategic Social Worker)

サービスシステムに戦略的影響を及ぼす非常に高度な実践や、SWにおける戦略的リーダーシップ/マネジメントを行う。SWrという職業の発展に貢献し、SWの知識と技術の発達に寄与する。また、品質と結果を改善するために組織内および組織をまたいだ変化を促す。

この進路には次の3つがある。

- **戦略的ソーシャルワーク実務者**: 組織をまたいで専門的な実務を先導する。
- **戦略的ソーシャルワーク教育者**: 地方、地域、全国で連携を取りながら、専門能力開発のニーズを満たすために戦略的に対応する。
- **戦略的ソーシャルワークマネージャーおよびリーダー**: 組織内から組織をまたいで、全体を管理し運営する

11. PCFにおけるキャリアラダー

	レベル	資格前				実務者			指導者	
		L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9
	領域									
目的	②価値と倫理									
	③多様性と平等									
実践	④権利、正義、 経済的福祉					N				
	⑤知識					Q				
	⑥批判的振り返り と分析					S				
	⑦介入と技術					W				
影響力	⑧文脈と組織					r				
	⑨専門的リーダー シップ					/				
	①プロ意識					A				
						S				

④権利、正義、経済的福祉: ファーストトラック受講者
 ⑤知識: 大学・大学院生
 ⑥批判的振り返りと分析: 実務者
 ⑦介入と技術: ASYE
 ⑧文脈と組織: スーパーバイザー